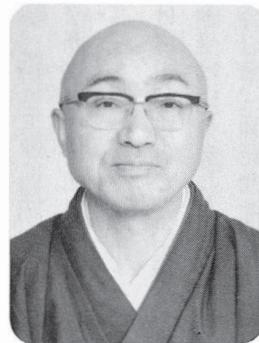


秋田県の梅花流師範会は発足以来、着実にその業績を積み重ねてきた。そのあらわれのひとつとして挙げさせてもらえるならば、梅花特派師範が四名も全国的に活躍しておられる事であろう。それだけレベルが高い証左といえるのではないだろうか。

この事は県師範会の機能が活発に働き、限りなく前進してきた道標でもある。これは一重に前会長、宗福老師始め会員各位の和合僧を基調としたご精進の賜物と、深く敬意を表しやまぬものである。

さてこの度、会の機関紙を発行することを年度初めの総会に提案、承認され、いよいよ

秋田県の梅花流師範会は発足以来、着実にその業績を積み重ねてきた。そのあらわれのひとつとして挙げさせてもらえるならば、梅花特派師範が四名も全国的に活躍しておられる事であろう。それだけレベルが高い証左といえるのではないだろうか。



師範会長
亀谷健樹
(太平寺住職)

創刊にあたつて

実現の運びとなつた。その意図は、私なりに次のように考えているので卒直に述べて、読者諸賢のご意見をうかがいたい。

一つには、会員みなさんそれぞれ、梅花を実参実究していらっしゃるが、記録されることはあまり無い。問題の把握もその時だけで、継続的にしかも深めることが出来ないうらみがありはしまいか。卒直に申しあげると、ひとりひとりは非常によく勉強していらっしゃるが、横のつながりが稀薄で、お互いの交流にしても研究の機会が終わると消えてしまう。つまり記録されることが無いので、永続的に押し進めたり研究するのが出来ない。この点を改善したいこと。

二つには、秋田県の梅花、やく三十年の歴史を、今のうちに書き留めておかなければ永久に闇の中に埋もれてしまう懸念が、実際問題として出てきた。その為にも、創立期に無慾でんたんとして会の事業にご尽力下さった役員諸老師の実績を、記録に残しておかなければならぬこと。

特派師範内管

会長	亀谷 健樹	幹事	佐々木禪壹
副会長	佐藤 仁鳳	〃	柳川 浩二
監事	柴田 弘一	〃	岩館 祖芳
顧問	加藤 信三	〃	須藤 知俊
幹事	丹生 純雄	〃	鈴木 道雄
幹事	佐藤 荒川	〃	佐藤 舜英
監事	高明 道機	〃	佐藤 廣俊
顧問	近藤 俊貞	〃	奥山 芳寿
幹事	本間 俊英	〃	保坂 春聰
事務局長			
会計			



平成元年11月1日

創刊号

題字	大館市宗福寺住職 加藤信三老師御染筆
発行所	北秋田郡森吉町本城 秋田県梅花流師範会
発行者	亀谷 健樹
編集者	(広報部) 柴田 弘一 北秋田郡森吉町印
印刷所	武石米内沢刷

のが聽かれなかつたこと。つまり情報交換だけでなく、私達の組織とか事業について、常に忌憚のない意見を述べる場が欲しいこと。以上、会報の必要性、役割についていささか愚見を弄したが、要はみんなのための広場であり、いろんな声が出され、まとめられる師範会の公器として、大きく育てて下さるよう、みなさんのご支援を願うこと、切である。

富岳正純
佐藤仁鳳、荒川高明、岩館祖芳、近藤俊貞
細谷裕昌、本間俊英、山田晃一、保坂春聰
(以上敬称略)

同行 発刊に寄せて



宗務所長
田口清謙老師
(常泉寺住職)

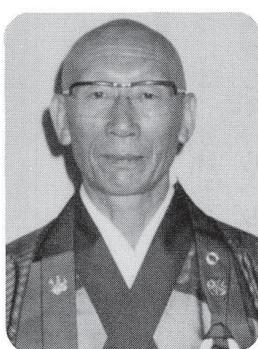
協力を得なければ充分に機能することが出来ないのも又事実であります。本来ならば宗務所梅花講が機関紙を発行し、梅花流の普及と師範会員老師各位を含む講員の研鑽に資するのが望ましい姿と思量されるのですが、万般の事情を御賢察頂きまして今度、師範会から機関紙「同行」が発刊される運びとなりましたこと衷心からお祝い申し上げる次第であります。今後この「同行」を通じて、益々梅花流の普及と梅花講員相互の親睦と研鑽が深められることを祈念して、発刊に寄せる一言といたします。

錦秋の好時節、管内老大宗師各位に於かれましては、四衆接化に寧日なき御精進のことと拝察、慶祝至極に存じ上げます。と同時に管内宗務行政に限りましては毎々特段の御法援と御高配を賜り深く稽首するものであります。付けても、去ること二年前の共催を心よくお引き受け頂きました「心のハーモニー」禅を聴く会以来、師範会老師各位には倍旧の御協力を賜り深甚の謝意を表するものであります。又全国奉詠大会への卒先参加、県奉詠大会の盛大さと円滑なる運営、万般に亘つての協賛と御活躍には敬意を惜しむものではありません。

宗務所に於きましても教化集団として、梅

花流師範、講師各位には大きな期待を掛けている現況であります。所主催の布教師研修会への参加要請もその一つであります。只、現在の處、宗務所梅花講が主事を中心にして企画立案は出来ますが、師範会員老師各位の御

御寺院の隆盛は梅花講



梅花主事
木村正則老師
(梅林寺住職)

梅花流正法教会から梅花流梅花講となり三十七年を経た。今日、秋田県には百十三講の設置、梅花講員一輪又一輪で五千有余人。三十年位前、秋田市天徳寺に於いて東北地区に本部講習検定が開催されました。秋田県

協力を得なければ充分に機能することが出来ないのも又事実であります。本来ならば宗務所梅花講が機関紙を発行し、梅花流の普及と師範会員老師各位を含む講員の研鑽に資するのが望ましい姿と思量されるのですが、万般の事情を御賢察頂きまして今度、師範会から機関紙「同行」が発刊される運びとなりましたこと衷心からお祝い申し上げる次第であります。今後この「同行」を通じて、益々梅花流の普及と梅花講員相互の親睦と研鑽が深められることを祈念して、発刊に寄せる一言といたします。

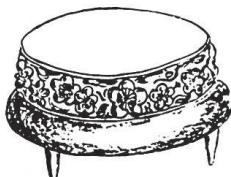
秋田県の現在の梅花流の発展に諸師範方は講設置運動から詠唱作法と講習、色々と御指導を重ねて参りました功績であります。

梅林寺梅花講は、鷹巣町七日市龍泉寺住職佐藤芳雄師範から昭和三十五年に講習を受けました。檀徒からは二年も続きますかと笑われた時もありましたが、特派師範巡回に天野賢定師範をお迎え二泊三日の教示をいただいた。

天野師範には二度お迎えが出来、その後も特派師範葛義人師範、石川黙仙師範二度、石岡智道師範、小松一哉師範、村上誠一師範、庭野慧芳師範、諸師範をお迎え出来、本当に有難く思つて居ります。

社会では、社会福祉協議会色々の会に於いて明るい社会をつくりましょと一生懸命に講習や講演が開催されて居ります現在、曹洞宗の梅花流全国奉詠大会県奉詠大会の会場に講員が到着と同時に顔なじみ笑顔で挨拶大輪の梅花万開如何んともうされぬ心境である。正に各御寺院の隆盛は、この梅花講にあると言つても過言ではあるまい。

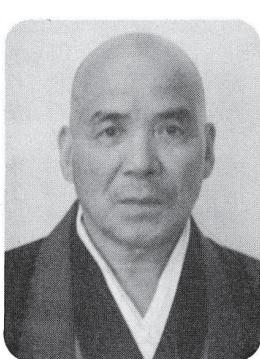
益々の発展を祈るものである。



《特集》

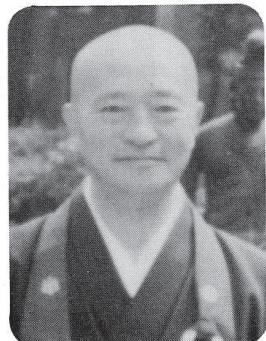
対談「梅花今昔」

佐藤仁鳳師 本間真英師
加藤信三師 丹生純雄師
佐藤道機師



佐藤仁鳳師
(全應寺住職)

丹生 昭和三十四年と言えば、私は未だ三十才にならない頃ですが、宗務所の現職研修の休み時間に、あちこちで御詠歌を唱えるグループがあつて、この中に佐藤仁鳳師がおられ「梅花流の御詠歌は、誰にでも唱えられるようになります」とすすめられたのです。



丹生純雄師
(相川寺住職)

本間 私も受講した一人ですが、最初はとてもついていけそうにない感じでしたが、その頃、故真勇和尚が檀信徒の婦人有志で修証義会を結成し、月一度寺に集まつておつたので、皆に賛同してもらい、ようやく昭和三十四年正法教会より惠林寺支部の認定を得たんです。

司会(柴田) まず梅花流の発足は、現在永平寺貫首であられる丹羽禪師様のお師匠様の故丹羽佛庵老師ほか多くの方々の御労苦に依って、昭和二十七年に高祖承陽大師七百回大遠忌を記念したことであつたわけですが、秋田県ではいつ頃はじめられたのでしょうか。

佐藤(道) 私は、昭和二十六年秋に、岸沢老師の眼蔵会で静岡県清水市に行きました時に、檀家のお母さんが鈴と鉦とを鳴らしてご詠歌をやっていたのを聞いたのですが、後で考えると、あれが梅花流のはしりだつたんだ、と思い知らされました。

佐藤(仁) 私も二三の法友からの便りで梅花流の発足は知っていました。

秋田でのはじまりは、確か昭和二十九年で、宗福寺様での西国三十三番靈場のジオラマのご開帳があった時で、今は亡き野村秀明師範(昭和四十八年遷化)が詠讃歌を奉詠して、参詣者の先祖供養又戦死病没殉難者の供養をして、参詣者が深い感銘を受けた事を思い出します。こ

司会 県南の状況はどうでしたか。

佐藤(道) そうですね。昭和三十年頃、宗会議員高橋禪友老師の勧めで、静岡県の大島賢竜老師(現・正伝師範)をご招待し、和敬会主催で、永泉寺様を会場に三年程講習を受けました。それから永泉寺支部

佐藤(道) その頃すでに中央に於て組織も徐々に整備されて来てましたが、毎年新曲が発表されるので、マスターするのに難儀しましたなあ。

和敬会では、先進の県や地区より、先般遷化された佐藤芳雄老師や佐藤仁鳳老師

においていただき、ご指導いただいたものであります。でも、毎年のように所作が変るのには参りましたなあ。

丹生 私は音楽にはまるで自信がないので、

檀中に三百円ずつの寄附をお願いして三万円程になつたので、新型のテープレコ

ーダー(重さ十二kg位)を買い、三十五

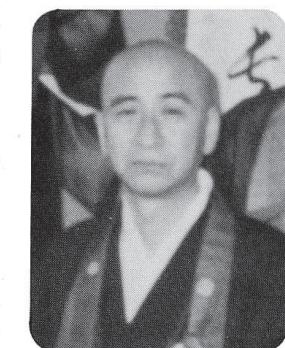
年正月のお参りの日、作法も何もわからぬままガリバン刷りの歌詞譜を配つてテープレコーダーをかけて、皆に聞かせた

んです。準備期間一ヶ年、担当師範佐藤芳雄師で三十六年四月、相川寺支部が発足しました。

練習会には、重いテープレコーダーを背負って行くのは大変でした。ある時機械が故障し、休むわけにも行かないのに、ついに梅花譜を覚えざるを得なくなつたわけです。

加藤 県北では、一位二位を決めた事もありませんが、へい害があり、仏様を讚歎するという、詠讃歌本来の姿から離れるので賞状を上げる事になつたんでしたね。

丹生 私の方では毎年和敬会の大会と検定会(二泊三日)に参加し、各会場に泊めて



加藤信三師
(宗福寺住職)

佐藤(仁) あの頃は手弁当で、よくやつたものですなあ。

司会 なるほど。ところで、だんだん講も増え、詠唱にも慣れて来ると発表の場を持ちたくなるのではないかと思いますが、大会などはどんなでしたか。

加藤 当時は公共施設もなく、教区主催の奉詠大会は、昭和三十二年、綴子の宝勝寺様で、舞台も本堂西序側の畳六枚を起

こし、飯台の上に載せた急ごしらえのもので、少人数の登壇でしたから、今から思うと家庭的な奉詠大会でしたよ。

佐藤(仁) 何も彼もはじめての試みでしたから各講長は勿論、講員もギコチない所作奉詠でしたが、戸惑い乍らも大成功でしたね。子供だけの登壇もありましたよ。

本間 県南では三十五年、第一回和敬会主催

奉詠大会、三十六年補陀寺大会、三十二年頃から宗務所主催となり以来、今日に至りますね。

佐藤(道) 大会では、優勝旗をお上げした事もありましたよ。

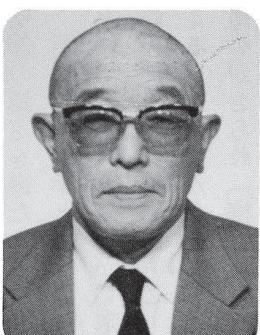
加藤 県北では、一位二位を決めた事もありませんが、へい害があり、仏様を讚歎するという、詠讃歌本来の姿から離れるので賞状を上げる事になつたんでしたね。

加藤 私は故佐藤芳雄老師より師範会長を受けてくれる様言られてから現会長に引き継ぐまでの二十数年間、皆さん意見を吸い上げ、意見の統一をはかる事に心がけて来ましたが、充分だったか反省していますがあとのまつり。現会長及び会員の皆さんがその点を補つて、めざましい発展をとげて喜ばしい限りと思つています。

司会 皆様のお話を伺つておりますと、今昔の感に堪えない次第ですが、あとひととんずつ梅花への提言、希望等述べていただきたく思います。

佐藤(道) 現在は全県的に講数も講員も増加し又、由利地区でも若い師範も育つて来ており、道心をめぐらして熱心に講員を指導しておられ、更に上級を望める有望師範が活躍しておることは、誠に心強く頼もしい限りだと思います。

今後は、全管内にわたつて梅花講の設置を宗務所行政に要望し、各師範は為法不為身の道念に徹し、梅花王国をつくりましょう。



佐藤道機師
(泉流寺東堂)

それと「心のハーモニー」の催しが、秋田県の御詠歌の実力、その他いろいろな力を推しはかる上で大事だと思うし心から賛辞を贈りたい。それぞれ短を補つて長をのばし、梅花発展により以上頑張つてもらいたいものです。

本間 確かに同感です。わたしらは、教える者も教えられる者も同じレベルからの出発だったわけで、よくもここまで続けてこられたと感無量の思いですし、現在の若い師範の素晴らしい詠法に全く昔日の想いがします。今後益々の発展を希つてます。



本間真英師
(恵林寺東堂)

丹生 県内から梅花特派師範が四人も出られ、よくぞここ迄頑張つたものだ、とつくづく感服します。今後を楽しく思っています。

佐藤(仁) はじめから一度も休むことなく、

少ない人数から今では大会に、県北で千

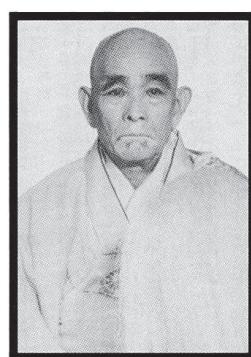
二百人、県南で六百人の参加、今昔の感一入ですなあ。今後の発展を願うと共に、今生きている有難さに感謝し、御詠歌になりきり、無心にお唱えしてまいり

司会 貴重なお話を、きょうはどうもありました。

どうございました。

司会 貴重なお話を、きょうはどうもありました。

県梅花流先達「佐藤芳雄老師」逝く！



佐藤芳雄老師

県内梅花流最古参であられる鷹巣町七日市の竜泉寺東堂佐藤芳雄老師が、今年五月三十一日、九十一才の世寿を全うされた。

老師は多岐に亘つての才腕能力を伸ばされた方であるが、殊に私どもにとつて忘れてならない事は、県内梅花流の草分けの存在であり、宗侶寺族一般を問わず、梅花流流布の為指導教化にご尽力下された事であり、とりもなおさず、その時かけた種が現在迄一輪一輪の梅花を咲かせつづけておることにつながる素晴らしい功績であります。

その功績が認められ、五月三十一日付で、管長様より「一級師範」を追贈されました。次に掲げますのは、本葬の折の佐藤仁鳳老師（全応寺様）の弔辞であります。

弔辭 佐藤仁鳳

老方丈様、本葬儀に当り、師範会を代表して恭しく弔辭を捧げます。

老方丈様には九十一年の生涯をとじ、

化を他に遷つされましたが、秋田県の梅花講発足当初より今まで私共梅花師範の師表であり秋田県梅花流の歴史そのものでございました。

大館の宗福寺様を会場に梅花の第一声を挙げたのは、昭和三十年の夏でした。

老方丈様は梅花譜の理解が早く、又筆

まめのお方で、発足当初は梅花の教典も

中々入手困難で、ガリ版刷りの教典で今

日講習が終り御自坊に戻ると早速作業開始、明日の講習にはインクの香でプリンプンする講本を沢山持つて来て下さいました。

教区主催の講習は勿論、当初は山形

の難波先生の元に指導を受けに二人で再

三出掛けましたね。今の様に録音器が有

るでなし、耳でしつかり聞き口で唱えて覚えるより有りませんでしたね。あれやこれやが昨日の事の様に思い出されます。

三十一年の総持寺の全国大会参加が第

一回の十八教区主催の奉詠大会開催につ

ながら、毎年休む事なく開催されて、二

三百人参加の大会も今では千二百人から

の参加を得ております。

自主研修には蘊蓄を傾けた指導で、各

師範、詠範が老方丈様の詠法所作がその

儘、各寺講員指導にどれ程役にたつたか

わかりません。本当にお世話様になりました。

私共師範も宗門教化の第一線に立つの自覚の元、老方丈様の意を体し益々詠道に精進し、その鴻恩に報ゆる心底でございます。当山俊晃和尚様も梅花の道に進み沢山の講員と勉強中です。

大寂定中、梅花流の発展を御照鑑あらん事を一言無辞を述べて弔辭といったしま

した。

私は師範も宗門教化の第一線に立つの自覚の元、老方丈様の意を体し益々詠道に精進し、その鴻恩に報ゆる心底でございます。当山俊晃和尚様も梅花の道に進み沢山の講員と勉強中です。

大寂定中、梅花流の発展を御照鑑あらん事を一言無辞を述べて弔辭といったしま

シリーズ

おらほの梅花講

(寺院によつて梅花講のあり方はさまざまである。現在県内)
百十三講のうち、今回二講の紹介を致します。

仁叟寺

じんそうじ

所在 鹿角市十和田毛馬内二六(第十一教区)
設立 昭和三十年十二月
講長 澤口 高明
講員数 三十四名
紹介者・講員 黒沢 英子



昭和二十九年十月、西国三十三觀音札所ジ
オラマが仁叟寺本堂で開帳され、鈴木輪道老
師、二級師範野村秀明尼、山形県の石黒さん
が来山、三日間
参詣者で賑つた。
其の時に秀明尼
が御回向のお経
の後に美しい声
で御詠歌を唱え
られた。伺いま
すと「此れは今
度曹洞宗で拵え
た和讃御詠歌で
す。皆さんは曹
洞宗の方ですか

昭和三十三年二月、本堂庫裡全焼で半年中
断。講員三十余名は托鉢修業で再建運動に励む。
昭和三十四年六月、秋田県梅花流支部結成
でその一員となつた。十ヶ寺位だつた。
昭和三十五年九月、仁叟寺落慶記念として
近県奉詠大会会場となり、三百名参加。遠方
の方は仮本堂に泊し十和田湖等に行かれた。
昭和五十二年一月、仁叟寺梅花講創設者初

ら覚えて下さい」との事でした。

昭和三十年十月、盛岡報恩寺会場全国大会
を知り、御住職沢口大教師のお勧め等で、音
楽御堪能の夫人ミツホ先生は同好者十名を連
れ見学参会され、正法御和讃作曲者権藤師自
ら壇上に立つ熱心な御指導に幸にも出合れた。
在来の大和金剛流と違ひ覚え易いと云う印象
を受け、会場で再会の石黒さんをお連れし、
感激と希望に燃えて毛馬内に帰られた。一週
間お寺に滞在を願い一同教わつたが、三宝御
和讃も一夜明ければ忘れててしまい、そう聞こ
えますかと石黒さんをあきれさせたりしたが、
修証義御和讃で梅花符、洋楽譜の関係を会得
された先生は御自分で教える決意をされた。

昭和三十年、成道会を期して発会。十八名。
昭和三十三年二月、本堂庫裡全焼で半年中
断。講員三十余名は托鉢修業で再建運動に励む。
昭和三十四年六月、秋田県梅花流支部結成
でその一員となつた。十ヶ寺位だつた。

昭和三十五年九月、仁叟寺落慶記念として
近県奉詠大会会場となり、三百名参加。遠方
の方は仮本堂に泊し十和田湖等に行かれた。

昭和五十二年一月、仁叟寺梅花講創設者初

代講長沢口大教師御遷化。五日の御本葬には
沢口ミツホ作詞赤松月船校閲の仁叟寺御詠歌
を初奉詠してお見送り申し上げました。
日常はお寺の行事、精靈供養お通夜に奉詠。
寒行托鉢、位牌堂清掃、その他。

特に涅槃会第二次総檀家合同法要には和尚
様方に従つて講員一同舍利礼文を奉誦、位牌
堂を巡らせて戴きます。毎週勉強会。

此の度の秋田梅花便り発刊に当りまして我
が講の歴史を記録を元に申し上げました。

恵林寺

所在 本荘市内黒瀬字程岡三九(第四教区)
設立 昭和三十四年六月
講長 本間 俊英
講員数 六十名
紹介者・講員 細谷サカエ



昭和三十四年、
方丈様からの呼
びかけで講が發
足、以来、現在
迄、殆んど休む
事なく毎月の定
例会を続けて來
ております。
講の初代会長
高野八重様は昭
和五十四年に、
次の会長山浅様

も昭和六十二年に亡くなられ、現会長本間様に引き継がれています。

講習会に出席するたびに、詠讃歌の内容をわかり易く説明して下さるので、その一節一節を聞く度に、心に迷いや悩みのある時などは殊に心が清められる思いが致します。

年と共に高令化がすすみ、今では姑から嫁へと世代交代し、徐々に若い講員になつてきました。

毎年三月のお涅槃会、六月の大般若会等には奉詠をさせていただいておりますし、講員の不幸の折にも皆で奉詠供養させていただき感謝しております。

昭和六十三年七月三十一日はわがお寺の晋山結制先住忌等の法要に参席、講員一同奉詠出来、みほとけ様の尊さ、行持の厳しさが身に沁みてありがたく、感謝致しました。一生の思い出と有難く、感謝致しております。

先般、平鹿郡の黄龍寺様を会場に、特派講習会が開かれました折、招かれて二十名出席、こちらの教区でも、一日も早く梅花講が設置されることを願い乍ら、モデル奉詠させていただきましたこと、大変幸せに思つております。又、毎年の県奉詠大会後、反省会を兼ねての一泊旅行は、お互いの親睦をより深めさせます。

これからも方丈様のご指導の元、より良き梅花の道を求めて、講員を増やし乍ら歩みづけたいと存じます。

第一回

宗侶、寺族一泊研修会 盛会裡に終る

去る十月十日十一日と、秋田温泉さとみ旅館を会場に一泊二日の研修会が行なわれた。師範会主催としては第一回目である。

講師に、静岡県光月院住職正伝師範である永田正道先生をお迎えして、参加者五十

数名と梅花道に対する関心の深さがうかがわれた。

内容は、詠道の呼吸法、发声法、そして旋播法に迄及び、終始熱心な受講態度であった。又、一人一人に向後の精進につながるであろうアドバイスをいただき、収穫多い研修会であった。

受講者の声、二三年続けてお出で願い、成長の程を見ていただきたいものだ、との声しきりである。



講習風景

奉詠大会

報告

師範会事務局長

奥山芳寿

奉詠大会

平成元年度の奉詠大会は、八月二十七日、県南・県北の同日開催と成了た。

県北大会は、大館市民体育館を会場に、地元大館北

秋教区初め、鹿角、能代山本、阿仁教区、それに五城

目、男鹿からも参加。

それぞれ定められた場所に落ち着き、午前十時、三宝御和讃奉詠、両班を先導に導師上殿、梅花主事老師による

の発声により開催される。

本尊上供、続いて講員物故者の追悼献詠は、佐々木師範による「澄心」独詠、「お誓い」、そして大会会長挨拶は、導師をつとめられた師範会長の亀谷健樹老師による

いよいよ第二部の登坦奉詠、地元大館の宗福寺講員



大会風景



検定会

による「慶祝御和讃」で始まり、午前は十五登坦。午後は師範詠範による「良寛さま」で幕があき、最後は、今大会最も多い四十名参加の鷹巣町綴子・宝勝寺講員による「報謝御和讃」で、六十四講、三十登坦の奉詠を締める。

第三部の閉会式は、正坐で始まり、時至つて柳川師範による「淨心」の独詠。講評は、師範の先達、佐藤仁鳳老師により、奉詠大会の総まとめとし、最後は、同行御和讃奉詠で県北大会も盛会裡のうちに無事円成す。

因みに参加人員は、一般講員九四三名、寺院関係一〇八名、計一〇五一名だった。

県南大会は例年の如く、金浦町「夕なぎ荘」を会場に、二十五講六一七名の会場満席の参加者。特別参加下さった山形県の藤原知雄特派師範より祝辞を頂戴し大会に花を添えた。

導師は本間憲禪副所長老師がつとめられ、会場は検定会併設でない為、全体にユツタリと落ち着いたムードで進行した。

大坂高昭師の絶妙な司会に依り、又宗侶寺族の協力よろしく、終始なごやかに、盛り上がりを見せた大会であった。

編集後記

△ 「同行」の題字は、宗福寺住職加藤信三老師のお手を煩わせ、染筆いたしました。ただきました事、まだ考えひとしお感無量のものがございます。

△ いろいろなご縁で梅花講員となられた皆さま。梅花流創立三十七周年を迎えて、日頃のたゆまぬ精進努力が実つて年々盛んになり、ついに「同行」を創刊させました。共々に慶祝したいものです。

△ 講員さんの一挙手一投足そのままが、今宗門が推進しておる「合掌礼拝運動」そのものの姿にほかありません。

△ 身近かな方々をおさそいで、梅花の輪をもつともっと広げましょう。

△ 講員さんも、宗侶寺族の方々も、二世代三世代迄も受けつがれ、活躍しておる所が増えて参りました。

△ 今生きておるしあわせを感じつつ、より楽しく、よりなごやかに、ご縁を大切に互いに心の上品に向つて高め合つて行きたいものです。

△ 創刊号発行にあたり、お忙しい中、ご寄稿いただきました皆さまに、厚く御礼申し上げます。

△ 今後、よりよい「同行」誌にして行きたいと存じます。ご意見、ご希望、情報等、ご一報下されば幸甚です。

者総数六三名、合格率は九五パーセントだった。

七月十七日、秋田市文化会館を会場に秋田市周辺地区対象で十二講より九七名受検され、見事全員合格。

県南地区は九月六日、金浦町の夕なぎ荘を会場に、十六講より二三一名受検。

県北地区は二会場で行なわれた。

まづ九月十二日は、二ツ井町のヘルスセンターで、能代山本、阿仁教区を対象に行なわれ、受検者は二二講より一八八名。

九月十八日は、大館市の北秋クラブを会場に、大館北秋、鹿角教区を対象に今年度最後の検定会が行なわれた。受検者は二十講より一〇六名だった。